

山形豪雨災害に関して追加の調査を行いました(2013/11/26)

テーマ：山形豪雨災害
場所：山形県大江町 最上川水系月布川

2013年7月18日に発生した豪雨に伴い、山形県では多くの被害が生じました。住家被害としては、全壊、半壊、一部損壊、床上浸水、床下浸水が合計451棟に生じました。公共土木施設等被害額は、20,221百万円（継続調査中）にのぼり、農林水産被害額は7,907百万円にのぼりました（山形県調査資料、平成25年11月8日時点）。

災害科学国際研究所では、本豪雨災害を受け、緊急災害調査を平成25年7月21日と22日に行いました。その追加の調査を、呉 修一助教（災害リスク研究部門）が11月26日に行いました。調査では、大江町を流れる1級河川最上川水系月布川を対象に、被害の生じた堤防や農地等の復旧状況を調査するとともに、今後の豪雨・洪水解析で必要となる情報の収集を行いました。洪水流で被害を受けた堤防は未だに土嚢を用いた仮設復旧の段階でしたが、農地に堆積した洪水氾濫土砂は、大江町の支援・協力のもと除去作業がかなり進行していました。

災害科学国際研究所では、東北豪雨災害のメカニズムを明らかにするとともに、今後の豪雨災害に備えるための研究・解析を継続的に行っていきます。



7月の豪雨に伴う月布川の護岸浸食



洪水流が橋桁を越水しガードレールが破損



堤防の浸食箇所を土嚢で応急保護する様子



洪水氾濫による堆積土砂の撤去作業（災害復旧工事）

掲載写真は全て11月26日に撮影。

文責：呉 修一（災害リスク研究部門）